

登録日時	2009 1/27 18:50	登録番号	005
チーム名	リン資源リサイクル推進チーム		
行動主体	<p>リン資源リサイクル推進協議会</p> <p>会長：大竹 久夫 大阪大学 大学院 工学研究科 生命先端工学専攻 教授</p> <p>役員：会長 1名、副会長 1名、幹事 6名、監事 2名、合計 10名</p> <p>会員：個人 46 会員、団体・法人 47 会員、合計 93 会員（平成 21 年 2 月 5 日時点）</p> <p>事務局：社団法人日本有機資源協会</p> <p>連絡先：〒104-0033 東京都中央区新川 2-6-16 馬事畜産会館 401</p> <p>TEL 03-3297-5618、FAX 03-3297-5619、E-mail <a href="mailto:prpc@jora.jp">prpc@jora.jp</a></p> <p>(詳細は、<a href="http://www.jora.jp/rinji/rinsigen/index.html">http://www.jora.jp/rinji/rinsigen/index.html</a> 参照。)</p>		
行動内容	<p>○リン資源のリサイクルについて、産学官の関係各者が集まり、オールジャパンのレベルで戦略的かつ総合的に協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外におけるリン資源の循環と再生利用に関する現状と今後の動向の認識を行う。</li> <li>・都市下水、含リン廃棄物、製鋼スラグ等の未利用リン資源からのリン回収技術や農業及び工業分野における省リン技術の開発促進、工業用リン酸や黄リン製造技術の革新等の技術の検討を行い、リン資源の回収とリサイクルに関する事業化の促進を行う。</li> <li>・リンの回収と再利用を円滑に進めるための事業者間連携や再生リンの利用を促進するためのリン資源リサイクルに資する施策について、産学官の幅広い関係者が一体となって戦略的かつ総合的な検討を行い提言する。</li> <li>・リン資源リサイクルの必要性に関して、産学官の関係者のみならず、リン由来の製品等を享受する消費者等の理解や意識改革についての啓発を行う。</li> <li>・もって、リン資源に関する持続可能な循環型社会の構築と、農地や公共用水域等の地球環境保全に寄与する。</li> </ul>		
課題分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国は、国内で消費するリンの全量を海外からの輸入に頼っているが、リン鉱石の価格高騰や産出国による資源の困り込みもあり、リン鉱石の入手が年々難しくなっている。</li> <li>・一方で、国内で消費されたリンは、都市下水等の生活排水や工場排水等にも含まれていることから、適正な回収（処理）が行われないことによる公共用水域等の汚濁が懸念される。</li> <li>・このため、わが国は、国内で使用したリンを回収し再利用したり、未利用リン資源の利用技術を開発する必要に迫られている。</li> <li>・また、リン資源のリサイクルに際しては、現在、種々の法的な制限もあることから、これらに対する政策的な支援も必要となっている。</li> <li>・このように、リンの回収、再資源化は、資源としての有効利用のみならず、肥料や工業用原料の安定流通、食料自給率の向上、農地や公共用水域等の環境保全など、広範な産業・社会・政策等の分野が関係しているため、産学官の協力のもと関係者が一体となって、戦略的かつ総合的に取り組むことが強く求められている。</li> <li>・さらに、リン資源のリサイクル推進のためには、リン資源リサイクルの必要性に対する一般消費者等の理解や意識改革も重要である。</li> </ul>		
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リン資源の回収、再資源化、流通、利用等に係る関係省庁や関係諸機関との積極的かつ効果的な連携が必要である。</li> </ul>		